

奈良市まちづくり市民会議（第2回）概要記録

■日 時： 平成21年11月6日（金）午後7時～午後9時00分

■場 所： 奈良市役所 中央棟6階 正庁

■プログラム：

1. 事務局の紹介と本日の進行について
2. 本会議の位置づけと運営について（前回の質問等への回答を含む）
3. 前回のグループワークの振り返り（会議のルールの確認）
4. グループワーク『奈良市の魅力と悩みを考えましょう。』
5. 全体まとめ

■会議資料：

- ①本会議の位置づけ・運営について（パワーポイント使用）
- ②奈良市まちづくり市民会議 全体スケジュール
- ③奈良市まちづくり市民会議（第1回） 市の現況への質問回答
- ④奈良市まちづくり市民会議（第1回） 市の現況への質問回答 資料集
- ⑤奈良市まちづくり市民会議 話し合いのルール（案）
- ⑥奈良市まちづくり市民会議（第2回）のふりかえり

※①～⑤については受付時配布、⑥については会議中に配布。

■出席者：

【市民公募委員】47名（欠席5名）

赤尾 隆、阿部 智子、井上 雅由、植田 正博、上野 登統、榎本 正範、岡本 胤継、
奥村 麻希子、北 良夫、北浦 由香、北野 剛人、木村 宥子、熊野 磯一、小島 道子、
小西 完治、笹部 和男、佐藤 正幸、澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、
田北 ますみ、武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、反田 博俊、友田 達郎、中川 徹、
中西 輝、橋本 光男、長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 朝子、濱 恵介、春田 稔、本間 香貴、
松永 洋介、松森 重博、村田 勝彦、元島 満義、森口 哲也、山本 素世、山本 善徳、吉住 秀、
吉田 俊夫、寮 美千子

【事務局】5名（企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 奥田 喜司、主任 木村 和弘）
引野 あずみ、山岸 公彦

【ファシリテーター】6名（山崎 亮、西上 ありさ、醍醐 孝典[studio-L]
六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子[ランドブレイン株式会社]

■傍聴者：0名



■会議の概要：

1. 事務局の紹介と本日の進行について

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 46 名が出席。

開催時点では、4 名から欠席の連絡を受けている。

○事務局、ファシリテーターの紹介：

○グループワークの進行役として民間事業者をファシリテーターとする理由の説明：

- ・多くの市民会議等の運営を行っている民間事業者に、会議の運営等に関する助言・提案を受けている。
- ・委員の皆様が主体となり、率直に語り合うなかで、奈良市の将来都市像、今後のまちづくりの基本的方向を考えていただくことが本来の目的であるため、グループワークのなかに職員は参加させず、その代わりとして第三者の立場としてファシリテーターが入り、委員の皆さんの様々な意見を集約していく役割を担っている。

○本日の進行：次第に沿って説明。今後の進行はファシリテーターにお願いする。

2. 本会議の位置づけと運営について（前回の質問等への回答を含む）

ファシリテーター（西上）が進行。

本会議の位置づけと運営について、事務局（企画政策課主幹 奥田）より、パワーポイントを用いて説明。

【説明の概要】

○前回の会議で出た意見・質問への回答について：

前回の会議で最も意見・質問が多かったため、奈良市まちづくり市民会議の位置づけや運営に関するご質問への回答を中心に説明したい。

なお、市の現況や財政に関する質問については、回答一覧と資料集を配布している。

質問の内容が多岐にわたるため、会議の場での説明は省略させていただきたい。

もし質問があるようならば、会議終了後に事務局に質問、あるいはふりかえりシートに記入をお願いしたい。

○総合計画についての説明：

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の三層で構成される。

このうち基本構想については、地方自治法により市議会の議決が必要となる。

基本計画は、基本構想を受けて、将来の都市像を実現するために、基本的な施策・事業を明らかにした計画であり、実施計画は、基本計画を実現していくため、期間を定めて、具体的に示す事業計画である。

○これまでの総合計画の策定過程の説明：

まず、市役所内の総合計画策定組織として、奈良市総合計画策定委員会を設置していた。ここで検討した基本構想の素案は、市長から奈良市総合計画審議会に諮問し、答申を得た後、市議会への議案として上程し、議会での議論の後、議決されていた。また、市議会基本構想について議論が行われる際には、基本構想だけではなく、基本構想の実現に向けた計画である基本計画(案)もあわせて提示し、議論の対象としてきた。

○今回の総合計画の策定過程の説明：

奈良市総合計画策定委員会、奈良市総合計画審議会は、今回の総合計画策定でも同様に機能する。ただし今回は、新たに、基本構想(案)のもとになる「奈良市が目指すべき将来の都市像」と「まちづくりの基本的な方向」を市民の視点から検討していただくため、奈良市まちづくり市民会議を設置した。

○参考に現行の第3次総合計画の将来像と今後のまちづくりの基本的方向説明：

⇒ <会議資料：①本会議の位置づけ・運営について>参照。

○市民の意見の把握方法の説明：

今までは、計画策定前にアンケート(市民意識調査)の実施や、総合計画の案(基本構想案、基本計画案)の段階で、パブリックコメントを実施してきた。

今回は、20歳以上の抽出した市民と、奈良市の将来を担う中学生を対象に、意識調査を実施した。今後は、総合計画の案の段階でのパブリックコメントや地域ごとでの懇談会などを実施する予定である。

○会議形式についての説明：

まちづくり市民会議は52人の大規模な会議のなか、全ての委員がより多く発言し、より深く議論するため、小グループに分かれて議論し、その結果を全員で共有する形がよいと事務局は判断した。そこで、グループごとに、委員それぞれの視点から意見を出し合い、認識を共有したうえで、合意形成をするグループワーク(ワークショップ形式)を採用した。

○「総合計画ができるまで見届けたいので、設置要項の効力の規定を改正してほしい。」という意見への回答：

「奈良市まちづくり市民会議」は、「将来都市像とまちづくりの基本的な方向」を考えて「市長に報告する」ための組織であり、その「目的」や「期間」に市民公募の際に提示した以上の要素を後から加えることは、現在の要項を見て応募しなかった他の市民に対して不公平となり、適切でない。このため、委員の任期が終わった後については、要所で総合計画策定の進行状況を報告させていただきたい。なお総合計画の策定に関するご意見は、地域懇談会・パブリックコメントといった別の機会を活用してほしい。

○「まちづくり市民会議では最終的に何をつくりあげるのか」という質問への回答：

「将来都市像」と「まちづくりの基本的な方向」に関する提案書の作成をお願いしたい。キーワードだけを並べるのではなく、それに至った背景や皆様の思いなども盛り込んでほしい。

○第8回(最終回)に報告会までの会議の流れの説明。

⇒ <会議資料：①本会議の位置づけ・運営について>参照。

○公募委員応募時に選択した希望分野を分科会テーマとして設定しない理由の説明：

複数の分野に関心をもたれた応募者が、かなりの人数いらっしゃったため、また関心のある分野の項目の番号「⑥その他」に、他の分野に加えることのできない項目(事務局の当初想定していなかった項目)の記入が複数あり、それらを1つの分野として取り扱うことは困難であったため、分科会テーマとして設定しないこととした。委員の皆さんがお考えの「奈良市の魅力・悩み」のなかには、強い関心・思い

を持っておられる事項が出てくることと思うので、それらをまとめることによって生まれたテーマのなかから、改めて委員ご自身が関心を持たれる事項を含むテーマを選んでいただきたい。

- 「応募時の小論文を各委員に公開（配布）してほしい」という意見への回答：
第1回会議では賛成・反対の両方のご意見をいただいた。事務局としては、小論文は、選考書類の一部として事務局が提出を求めたものであり、他の委員への公開を前提として求めたものではないこと、委員の皆様の中にも、応募のために事務局に向けて書いたものであり、他の委員への公表を前提としたものではないと考えておられる委員の方がおられること、公開を希望しない委員がおられる限り、全員の総意としての公開への同意は得られないことから、小論文の公開は控えたいと思う。

3. 前回のグループワークの振り返り（会議のルールの確認）

ファシリテーター（西上）が、前回のグループワークを踏まえて事務局が整理した「奈良市まちづくり市民会議 話し合いのルール(案)」を説明・確認。

（会場からは特に意見なし。）

⇒ <会議資料：⑤奈良市まちづくり市民会議 話し合いのルール(案)>参照。

4. グループワーク『奈良市の魅力と悩みを考えましょう。』

【グループワーク】

- ・出席者が会議開始時にくじ引きをして、6つのグループを構成。
- ・グループにわかれて、奈良市の魅力と悩みについて話し合い。
各自が、記入してきた「魅力・悩み」整理シートを踏まえて、奈良市の魅力を黄色の付箋、奈良市の悩みをピンク色の付箋に記述。
各自が、記述した付箋の内容を発表した後、意見交換をしながら、付箋を模造紙に貼りつけ、整理。
なお欠席者のうち、「魅力・悩み」整理シートを事前に事務局に提出していた委員(2名)の意見については、グループファシリテーターが代理となり付箋に記述、発表。
⇒ <グループワークの記録>参照。
- ・グループ毎に模造紙でまとめた内容を踏まえて、話し合いの内容を発表。

<グループ毎の発表の概要>

1グループ

まず奈良の魅力についてですが、奈良には1300年の歴史があり、それに関わる様々な魅力について意見があがりました。それに自然について、これも多くの意見がありました。そのような環境のなかで、天災が少ないというのが大きな奈良の魅力ではないかと思います。それとつながる安全安心について、市民の人柄や犯罪が少ないなどの意見がありました。なかには行政の対応が良いというような意見がありましたが、これは人の対応の仕方にもよると思います。また教育水準が高いという意見も出ました。これは個人の意見だと思いますが、奈良のまちづくりには崇高な理念があるという意見がありました。

悩み、こちらの方が多くあがったのですが、税収不足、高齢化の問題というのは、永遠のテーマで奈良市だけではない問題だと思います。また奈良市特有の問題として、都市計画づくり、自然との調和あたりが悩みの1つとしてあがり、それにつながるものが、道路事情についてで、特に休日は渋滞になり、観光客が文句を言って帰っていくという意見がありました。また子育てについては、子育て世帯の受け入れ体制が上手くできていないという意見がありました。将来的なもので、これから10年を考えたときにはどういう将来像になっているかという視点も含めて、奈良市のまちづくりを考えていかなければならないということになりました。

6グループ

奈良の魅力ですが、まず世界遺産が多く、それに関わる歴史・伝統・文化があります。日本人の心のふるさとという気持ちがあります。奈良公園をはじめ緑が多い、そのような環境のなかで住みやすいまちと言えます。

悩みの方については、子どもの関係、特に出生率がワーストスリーぐらいで子どもの数が少なくなるという意見がありました。また子どもを取り巻く環境がよくないという意見もあがりました。教育については、大学の受け皿がないという意見がでました。自然環境につきましては、自然を増やすという意見になっています。観光については、特にホテルやおいしいものがないという意見です。行政運営につきましては、市議会議員のやっている活動がよくわからない、またコミュニティについては、まちの人間関係がうすくなってきているという意見が出ました。生活環境につきましては、道路がせまく、観光シーズンには渋滞が多くなってしまうという意見でした。

5グループ

Narrative city として、世界遺産を中心に非常に文化があるということ、歴史や物語性があり、まちの風景や自然風景があることが一番大きな魅力ではないかということになりました。

悪い方では、簡単に言うと破壊ということになります。まち並み景観や自然破壊、もしくは文化遺産が破壊されている、奈良市の魅力が破壊されつつあることが大きな悩みと言えます。もう1つの大きな問題として、どうしてこの会議に大学生や20代の若い方が参加されないのか、これからの奈良市を考えるのに、若い人達の意見を取り入れられないというのが大きな問題だと思います。また人材を生かしきれていない、情報発信の工夫がないなどの意見もありました。最後に市民自身が奈良の魅力を理解していないという意見もあり、これが一番大きな問題ということになりました。

4グループ

まず、話し合いを進めるなかで、奈良市のなかにも自然が多い東部地区と自然が壊されている西部地区との地域格差があるという意見が出ました。歴史文化と自然というものがあって、そこに観光というものが出てきているというのが奈良のまちだなということになりました。そのなかには、自然、文化財があるからこそ市街化が進まない、開発が進まないという、一方では、歴史文化や自然といった魅力が、影響を与えているという意見も出ました。あとは、面白いものとしては、奈良市でも

NO1のものもあるということで、教養娯楽費やピアノ普及率などが全国で1番の市であるらしいという話です。人口減少や高齢化、これも良い面もあるし悪い面もあります。仕事や産業に関する問題が出てきました。また西部地区ではベッドタウンが多く、大都市へは行きやすく住みやすいけれども、市政には無関心という意見も出ました。

3グループ

まず魅力としては、歴史文化、自然環境があがりました。子どもの教育レベルや自然災害が少ないという意見がありました。また意外と便利というのは、京都や大阪、このたびは神戸にもアクセスしやすくなったということです。また奈良市の特徴として、人口が多くない、都市の規模がそれほど大きくない、それが逆に魅力ではないかという意見が出ました。

悩みについてですが、たくさんありますが、歴史自然が豊富にありながら、それが大切にされていないという問題点があり、守らなければならないという意見が出ました。緊急医療体制が心配、楽しむところがあまりなかったり、人が保守的だ、交通も人にやさしくないなどの意見が出ました。また、せっかくの文化歴史的な遺産がありながら、それが上手く活かされていない、泊まる場所もなく、お金が落ちない、経済が上手くまわらない、商店街が衰退してしまうなどの問題があります。これに対応するためには、全国を追っかけているばかりじゃ駄目だ、逆にこれだけ遅れているのだから、周回遅れのトップランナーを目指そう、ということになりました。これから、今ある魅力を活かして奈良市のまちづくりをすすめるため、行政を含め、このような場にいる人達などが、まちづくりに取り組むことが大切だと思います。

2グループ

まず、問題点が多いということです。

悩みとしては、まず観光では魅力のある郷土料理や土産物がない、商業としては、近隣の大型店舗が出店してきている、人については少子高齢化や人口流出などがありました。また住んでいる人がまちの魅力がわかっていないということで、様々な問題が起こっていると思います。ビューポイント、見る価値のある景観はあるのだけれども、一方で都市計画が上手くないという意見がありました。また交通の問題はいうまでもないと思います。また火葬場・斎場については是非立派なものをつくってほしいと思います。

魅力としては、人として伝統文化が生きている、自然が豊かというのは皆さんご存知だと思いますが、その他に歴史・伝統、シャッターポイントとなる景観について意見があがりました。先ほど「周回遅れのトップランナーを目指そう」というご意見がありましたが、こちら、なりゆきで周回遅れのトップランナーを走り始めたという意見がでました。

5. 全体まとめ

ファシリテーター(山崎)が進行。 ⇒ <全体まとめの記録>参照。

【全体まとめの概要】

- ・各グループの発表内容を、「住環境」「歴史」「医療」「観光」「産業」「ひと」「教育」「将来」「自然」「環境」「交通」「まちづくり」「行政」「市民参画・地域活動」というテーマに大別。
- ・テーマ設定についての意見交換。

＜テーマ設定についての意見交換の概要＞ 【凡例】Fファシリテーター意見、委委員意見

- ・F「自然」と「環境」をあわせて「自然環境」にしてはどうか。
- ・委「自然」と「環境」をあわせて「自然環境」にすればよいと思う。
- ・F「医療」については、今後ユニバーサルデザインや人々の暮らしに関連するので、「医療」と「住環境」をあわせてはどうか。また「ひと」と「教育」はつながると思うがどうか。また「観光」と「産業」をつなげてはどうか。
- ・委「医療」と「住環境」を一緒にするのはおかしいと思う。「医療」というのは、ここには出てきてはいないが、「福祉」とつながると思う。
- ・F発表では、それほど出てこなかったが、関心としてはあると思う。「医療」に「福祉」を追加したい。
- ・委「住環境」はむしろ「まちづくり」とつながる内容だと思う。
- ・委「まちづくり」は包括的な概念なので、「都市計画」に変更した方がよい。「都市計画」と「交通」は一緒に構わないと思う。
- ・委今、ここではまちづくりについて、様々な内容を考えているので、「まちづくり」は全体を指すと思う。「まちづくり」は「都市計画」の方がよい。
- ・F「まちづくり」を「都市計画」に変更する。「都市計画」と「交通」、「住環境」をまとめて構わないか。
- ・委 ～拍手～
- ・委まちづくりのなかでは住民参画や地域活動への支援という内容もあったと思う。
- ・委自然環境と地球環境は別にした方がよい。地球温暖化防止は今後の大きなテーマだと思う。

【分科会テーマ設定について】

- ・テーマ設定についての意見交換を踏まえて、事務局が次回までに分科会のテーマをまとめる。

会議閉会にあたって

ファシリテーター(西上)から、次回開催予定についての予告、「ふりかえりシート」の記入・提出期限[11月11日(水)]を説明

【次回開催予定】

- ・日時：平成21年11月27日(金)午後7時～
- ・場所：奈良市役所 中央棟6階 正庁

1グループ

【参加者】委員：奥村 麻希子、北野 剛人、笹部 和男、田中 保夫、反田 博俊、春田 稔、本間 香貴、山本 素世

ファシリテーター：山崎 亮（渡邊 新一：欠席のため事前に「魅力・悩み」整理シートを事務局に事前提出、本グループで整理）

魅力

●市民に郷土を愛する気持ち強い

●世界遺産の教育をしている

<自然>

- 豊かな自然
- 自然が多い
- 自然豊かなまち
- 緑が多い
- 自然に囲まれている
- 自然と都市が融合している
- 大都会でない
- 高い建物が少ない
- 静かな環境

<歴史>

- 歴史的環境
- 歴史がある
- 歴史があるまち
- 1300年を超える日本を代表する歴史がある
- 日本史に出てくる地名を身近に目にする事ができる
- 国家形成の壮大な歴史的背景と人物
- 雄大な歴史的風土の魅力
- 古くから継承された神社仏閣
- 世界遺産のあるまち
- 史跡が多い
- 保存されている平城宮跡
- 観光のまち
- 観光資源が多い
- 全国で有名

<教育>

- 教育水準が高い
- 美術館・博物館がある

<文化>

- 伝統文化が多い
- すばらしい文化力・文化（遺産）
- 遷都1300年祭が開催できること

●天災が少ない

<安全安心>

- 市民の人柄が暖かい
- 行政の対応が良い
- 犯罪が少ない
- 高齢者優遇策 無料バス等
- 奈良サポートネットがある

<住みやすさ>

- 大都会に近い

<奈良のルーツ？>

- 崇高な理念が存在する
- 奈良は都市計画法での都市でなく国家の都

悩み

<都市計画>

- ▲都市計画の理念が明確ではない
- ▲開発と環境保全
- ▲歴史的風土の観点場が未整備
- ▲空地にホテル計画は、位置づけは
- ▲塩づけ土地がある
- ▲都市計画限定された公園施設、プール撤去
- ▲平城宮跡、奈良公園に清水の流れがない

- ▲天災が少ないことをどうPRするか？
- ▲まちの魅力をどうやって維持しつづけるか

<市民意識>

- ▲環境問題に対する意識がまだまだ低い
- ▲市民の歴史や伝統、世界遺産等に対する意識の低さ
- ▲東部と西部が分断しているような感じ
- ▲行政に対する信頼度

- ▲高い建物が建てられない、地下が掘りにくい ⇒都市開発が進まない
- ▲地場産業の衰退

- ▲市内に働くところが少ない
- ▲目立った産業がなく、税収に結びつかない

<税収不足>

- ▲人口の減少
- ▲税収の減少（大企業がない）
- ▲職員自らが収益を考えない、法令履行のチェックなし
- ▲お金はないと行政は言う
- ▲人口減少による税収不足

<将来？>

- ▲道州制実施でどうなる？（奈良市・奈良県）

<交通> 道路事情

- ▲交通が不便（特に車）
- ▲道路が狭い（歩道のないところがある）
- ▲歩行者・自転車
- ▲弱者に優しいまちづくりが不十分（例：歩道に傾斜多い）
- ▲近鉄駅前送迎者用場所がない

渋滞

- ▲休日の交通渋滞
- ▲道路渋滞／▲渋滞する
- ▲道路事情が非常に悪い（特に休日）

<地域づくり>

- ▲市民参画、協働まだまだこれから
- ▲コミュニティない？あるかどうかわかりにくい
- ▲地域活動推進の基盤整備
- ▲地域団体の育成

<少子高齢化>

- ▲高齢化社会を迎える準備
- ▲少子高齢化（日本全体の問題だけど）
- ▲高齢化による社会保障費増加
- ▲将来の医療が不安

<子育て> 保育

- ▲年少保育
- ▲子育て世帯にとって住みやすいとは言えない
- ▲働きにくさ 保育園・学童保育等
- ▲子どもの遊びの少なさ

教育

- ▲公教育重視していない
- ▲子ども達の体力が低い

教育

- ▲国民が学ぶ教科書に奈良はネガティブに

観光

<観光>

- ▲埋もれた観光資源の発掘
- ▲「魅力」が観光に有効に活かされていない
- ▲集客
- ▲観光の魅力の不十分さ（夜は行くところなし）
- ▲参加型観光がない、不足
- ▲夜も楽しいまちにするにはどうしたらいいか
- ▲観光客が宿泊せず、金を落とさない。「奈良市民もそれでよいと思っている」と思われている。

2グループ

【参加者】委員：上野 登統、榎本 正範、澤崎 嘉造、橋本 光男、松永 洋介、松森 重博、村田 勝彦、吉田 俊夫

ファシリテーター：六本木 晃夫

【魅力】

<人>

- 信心深い人が多い
- 伝統文化が生きている
- 万葉歌
- 市民の文化活動がさかん

<自然>

- 原始林が市内にある
- 原始林(春日)森林
- 春日奥山
- 緑が多い、公園が広い
- 奈良公園、鹿
- まちが小さく、すぐ公園地域や森林に行ける
- 空気がいい

<歴史・伝統>

- 古い社寺が多い
- 歴史がある、世界遺産など
- 歴史的価値ある文化遺産
- 我国の国宝・重文が多くある
- 1300年前の有形無形の文化が残っている / ● 神社仏閣が1300年守る
- 独自の魅力あふれる、恵まれた世界に誇れる都市(古都)
- 文化資源が豊富
- 伝統行事が多く残り、再現している行事が多い

<シャッターポイント>

- 古都、神社、仏閣、世界遺産
- 地下に眠る千数百年の歴史、可視化していくこと、開発現場の観光体験
- 現存する歴史的建造物が映えるまちなみづくり

- シルクロード、正倉院

- 古いものを大切にしている(戦災がなかった)
- (なりゆきで)周回遅れのトップランナーを走り始めた

<伝統技術>

- 消えそうな物づくりの伝統が残っている
- 伝統工芸が生きている

- 都市開発が遅れていて、昔ながらのまちなみが残っているところがある
- 新幹線が来ていない

【悩み】

インフラ

<都市計画>

- ▲ 都市計画アンバランス
- ▲ 都市計画ゾーン分け
- ▲ 高架橋、歩道橋、その他工作物
- ▲ 社会的インフラ、焼却場(ゴミ)、斎場(火葬場)が不足、老朽化
- ▲ 葬式が不便
- ▲ 道が狭くて、駐車場が少ない、渋滞

<景観>

- ▲ 景観上問題箇所が多い
- ▲ 保全と改廃、調和・調整不足
- ▲ 「まちなみ」が平凡、日本全国どここのまちとも同じ。「なら」らしいデザインを生み出そう

<産業>

- ▲ 商業に対する予算が少ない
- ▲ 隣接市の動き(大店設置)に無力すぎる

<伝統文化>

- ▲ 伝統工芸の伸び悩み
- ▲ 文化遺産のPR不足、仏像など

<交通>

- ▲ 交通マイカーが多すぎる
- ▲ 交通自転車レーンや駐輪場が少ない
- ▲ 交通・観光道路標識や案内板が少ない
- ▲ 車と人の動線、渋滞が多い。散歩・遊歩の楽しい「まち」「まちなみ」を
- ▲ 物流アクセスが悪い

<管理>

- ▲ 強剪定された無残な街路樹
- ▲ 維持管理不足、街路樹等

- ▲ 原始林(自然)が生かされてない
- ▲ 鹿の事故死、栄養不足(鹿せんべい問題)

<財源>

- ▲ 個人の税負担は大きい、全体の税収が少ない
- ▲ 市の財政、自主財源

<人>

- ▲ 人口の他府県への流出がはじまっている
- ▲ 労働人口が流出している
- ▲ 高齢化が進んでいる
- ▲ 少子高齢化、人づくり
- ▲ 他者性がない
- ▲ 地域の魅力や価値に対して住んでいる人が無理解
- ▲ 市民の意思統一(まちをよくする)が不十分である

- ▲ 住宅都市の意識が強くて観光都市の意識がない
- ▲ 観光都市としての市民の意識が低い

<観光>

- ▲ 観光産業と収益性
- ▲ 観光以外に市をアピールする物がない?
- ▲ 魅力のある郷土料理や土産物が少ない
- ▲ 郷土(料理)等少ない(フードフェスティバルイベント、今行っている多く)
- ▲ おみやげ、メイドイン大阪が多い
- ▲ 観光の忙しいシーズンと暇なシーズンの差が大きい
- ▲ 宿泊設備が少ない
- ▲ 宿泊観光客が少ない
- ▲ 若い人が泊まりやすいリーズナブルな宿泊設備が少ない
- ▲ 観光「もてなしの心」不足
- ▲ 観光誘致の基本的な態度、姿勢が乏しい

3グループ

【参加者】 委 員：赤尾 隆、北 良夫、熊野 磯一、小島 道子、田北 ますみ、畑中 忠司、濱 恵介

ファシリテーター：岡田 実成

魅力・いいところ

周回遅れのトップランナーをめざそう！

悩み・問題点

<意外と便利>

- 大阪神戸京都と近く、通学・通勤・買物に便利
- 意外と(京都・大阪・神戸)アクセスが良い
- 近隣部への交通便

<守られなければ！>

- ▲歴史的環境が全体として面的に守られていない
- ▲大切にされない身近な自然環境
- ▲景観上の混乱(電線・電柱・看板)

<市政の問題>

- ▲市政の健全化(赤字財政解消)
- ▲市職員の業務革新

- ▲現代の奈良を誇りに思っている人が少ない
- ▲奈良の未来が見えない
- ▲市民の将来期待感が低い

身近

<自然>

- 自然が多い
- 森林
- 原生林がある(国定3つ)(春日山)
- 自然の多い感動、憧れの場所
- 豊かな自然と歴史的文化遺産
- 動物(鹿)共生している
- 自然環境は残っている。静かで空気も良い
- 景観眺望に恵まれている
- のどかである
- 暮らしやすい生活環境と自然環境が良好

外から見れば、不便に思われている！

<医療>

- ▲救急時の医療体制が弱い
- ▲医療体制が悪い
- ▲病気になった時心配

<特徴奈良らしい>

- ▲成長戦略の欠落
- ▲総バナの事業

35%が県外へ

<地元活力>

- ▲文化・教育などで大阪・京都に依存している部分がある
- ▲県内消費の拡大(外で稼いで外で使うのを内で使う)
- ▲地元商店街が衰退
- ▲県外就業率が高い
- ▲大仏商法からの脱却
- ▲市内で宿泊する客が少ない

<歴史・文化>

- 日本創世記の歴史が豊富
- 世界に名だたる寺社仏閣がある
- 歴史遺産
- 古いまちなみが残っている
- 古い伝統文化が残っている(民族なものも含め)
- 文化的歴史的観光資源や寺社のお祭り・イベント等に恵まれている
- 名所・旧跡による観光産業
- 大和民族の遺産が決め手の観光空間
- 歴史ロマンの体験で心の癒しを叶える

- ごみや下水の処理が適切である

- ▲JR駅前が淋しい
- ▲大阪等のごみ捨て場
- ▲近代の歴史がない

<楽しむところ少ない>

- ▲スポーツやレクリエーションの楽しむところが不足
- ▲奈良公園は広いが楽しむことができない(鹿の糞やおしっこで臭い)
- ▲学校など公共施設の開放

<人に優しくない交通>

- ▲観光ルートがわからない
- ▲自転車にやさしい道ではない
- ▲都心、自動車に寛容すぎる
- ▲歩道などに放置された自転車・植栽の管理
- ▲交通渋滞と幹線道路が整備されていない
- ▲高齢者や障害者にやさしい道路がない

<小さなまち>

- 人が少ない(人口が少ない)
- 都市の規模が大きすぎない

魅力

<安全なまち>

- 災害の少ない都市
- 地震や水害等の備えが来ている
- 自然災害の少なさ
- 治安が良く、子ども・女性にも安心
- 安全で犯罪が少なく、治安がよい

<子どもの教育>

- 伸び伸び(→のんびり?)とした子どもが育っている
- 教育レベルが高く、子どもの教育にベスト

<人>

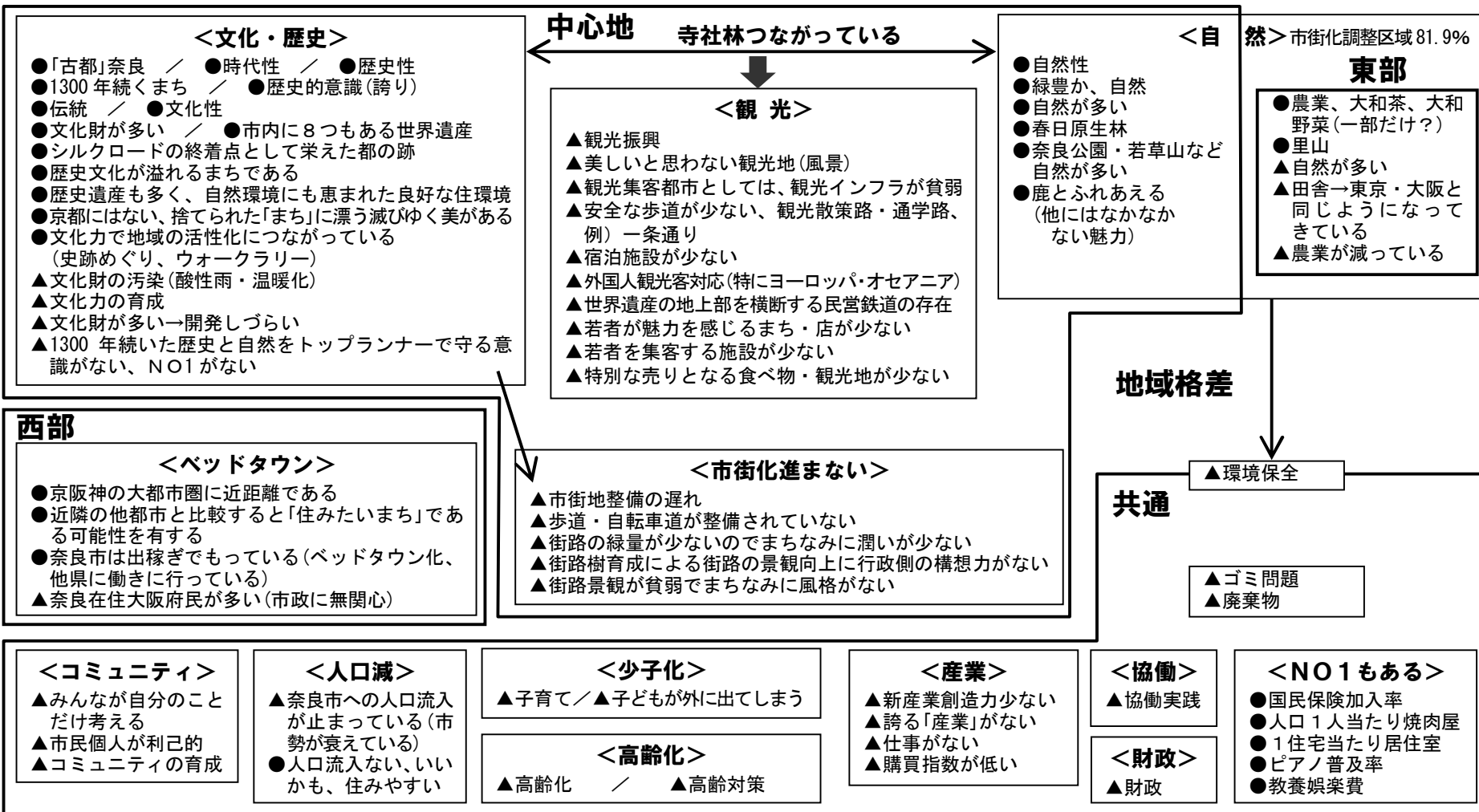
- 排他的ではない

<人が保守的では？>

- ▲保守的、遅れている
- ▲独立心がない
- ▲変化を好まない人が多い
- ▲地域を支えあう生活意識の希薄

4 グループ

【参加者】委員：井上 雅由、岡本 胤継、北浦 由香、佐藤 正幸、四反田 喬典、友田 達郎、中西 輝、元島 満義
 ファシリテーター：桐山 法子

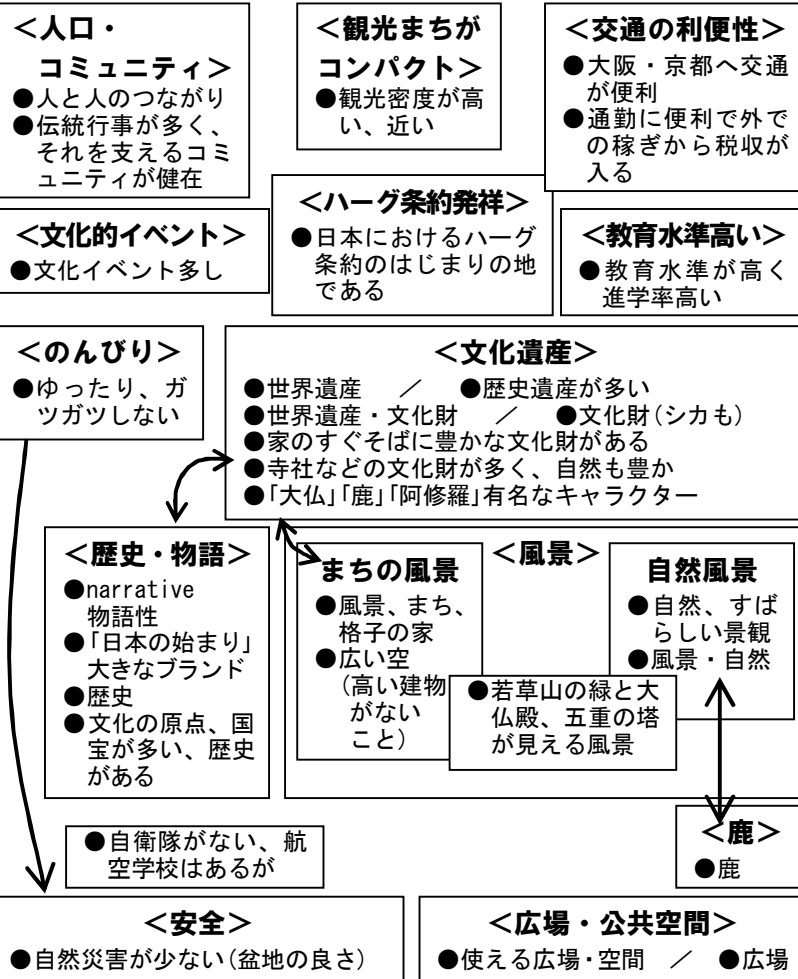


5グループ

【参加者】委員：阿部 智子、木村 宥子、新堂 順規、武村 俊宏、多田 充朗、長谷川 庸司、濱 朝子、寮 美千子

ファシリテーター：醍醐 孝典

奈良市の魅力 Narrative city



奈良市の悩み 破壊

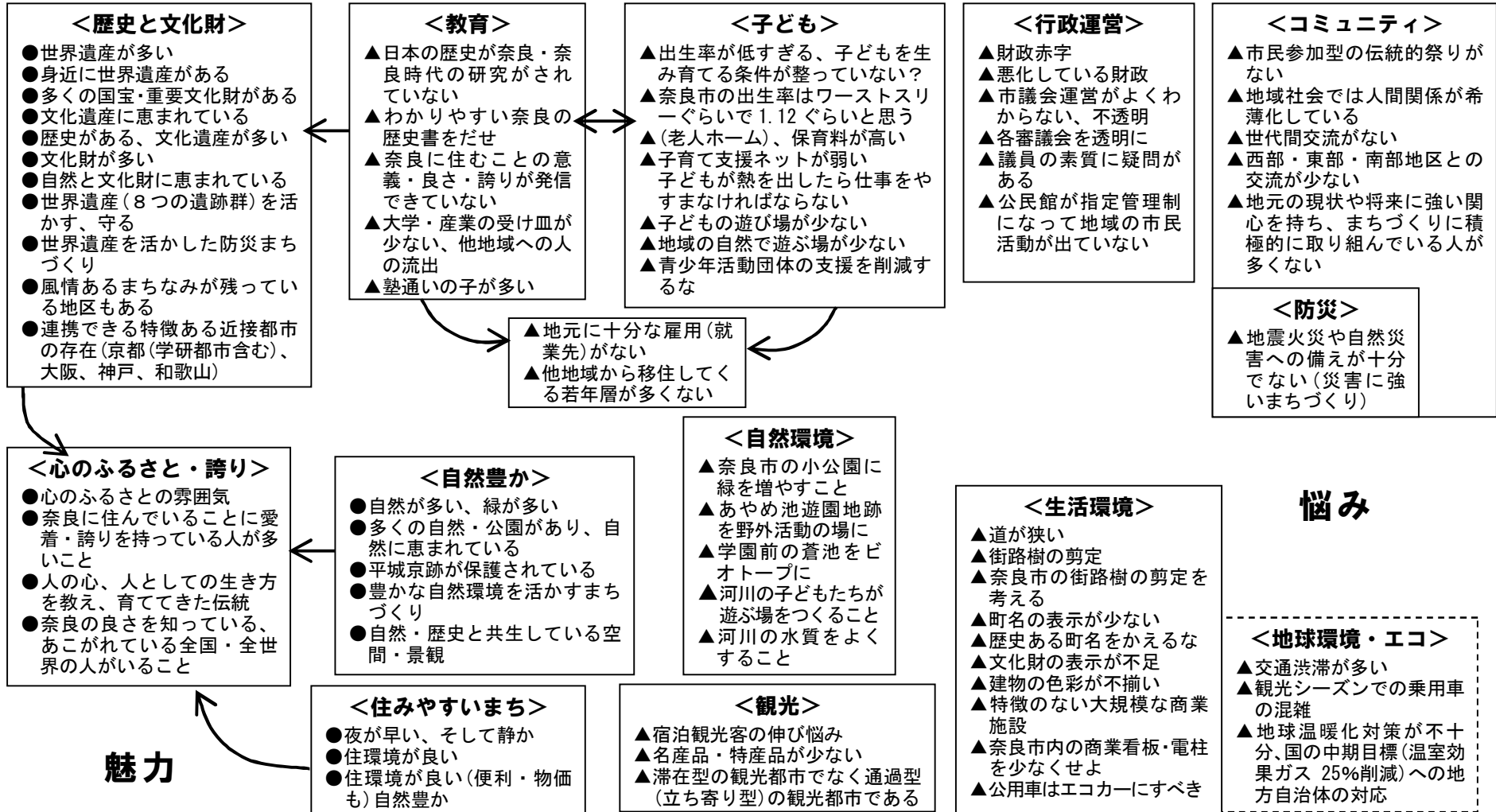


6グループ

【参加者】 委員：植田 正博、小西 完治、高松 典正、谷 幸三、中川 徹、森口 哲也、山本 善徳、吉住 秀

ファシリテーター：西上 ありさ（宮本 郁江：欠席のため事前に「魅力・悩み」整理シートを事務局に事前提出、本グループで整理）

13



<全体のまとめの記録> ※各グループ発表・模造紙等を踏まえてファシリテーターが模造紙に整理したもの

【凡例】 ●：魅力、 ▲：悩み 下線二重線：意見交換の際に追加、 二重取り消し線：意見交換の際に削除

市民参画・地域活動

環境

- ▲排気ガス
- ▲火葬場が貧弱

自然

- 豊か（自然）
- 緑が多い／近い
- ▲子どもの遊び場が少ない
- ▲自然破壊

行政

- 対応が良い
- ▲戦略が必要
- ▲税收減
- ▲縦割り

住環境

- 住みやすい
- 京都、大阪に近い
- 人がほどよく少ない
- 自然＋住居
- 安全／災害が少ない
- ▲中心市街地が衰退している
- ▲子どもの遊び環境が少ない

医療＋福祉

- ▲将来が不安

歴史

- 世界遺産／文化／物語／風景
- 心のふるさと／伝統
- ▲破壊

観光

- 歴史資源
- ▲PR不足
- ▲夜がつまらない
- ▲ビューポイントが整備されていない
- ▲宿泊施設が少ない

産業

- 伝統
- ▲仕事が少ない

交通

- ▲渋滞
- ▲道路が狭い

都市計画

~~まちづくり~~

- 理念がある
- 開発が進まない
- ▲計画がない
- ▲まちなみ破壊

ひと

- いい人が多い
- ▲奈良の魅力を理解していない

教育

- 水準が高い

将来

- 周回遅れのトップランナーを目指せ